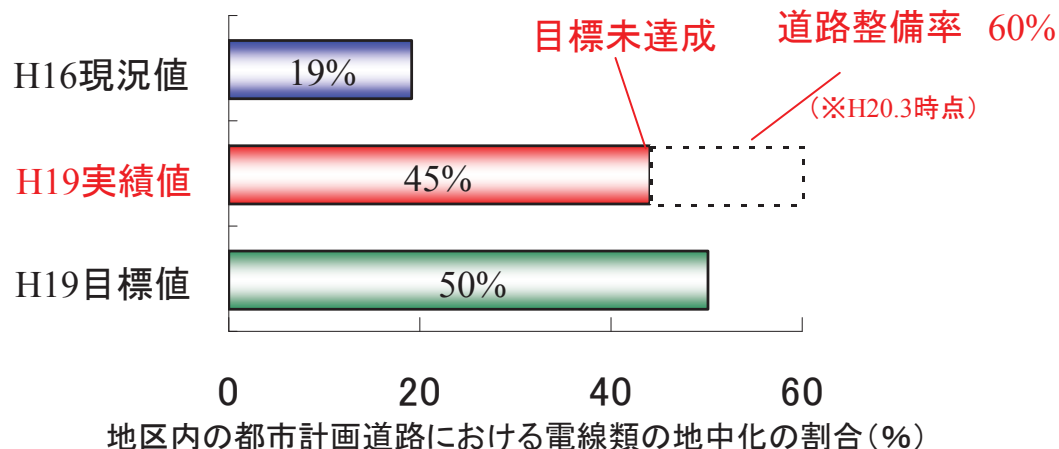


# 事後評価【パッケージ2：電線類の地中化率の向上】

## 要素事業の進捗状況

(H16～H19年度の交付金実績額) / (H16～H19年度の交付金事業費) = 65%

## 目標値の達成状況



- 電線管理者はコスト縮減と工事の効率化のため、一定のまとまりをもった路線の完了後に電柱を撤去する方針であり、路線の一部については道路整備が完了し、快適な歩行者空間は確保できているものの、電柱が撤去できていない路線があるため目標の達成には至りませんでした。
- 一方で、道路整備延長は60%となっており、快適な歩行者空間の確保が図られるなど一定の効果が発現しています。
- 今後、一定のまとまりをもった路線の整備完了に努めるとともに、部分的に完成している路線についても、電柱の撤去ができるよう電線管理者との協議に努めます。

## 成果目標以外の事業効果の発現状況

災害時に、電柱の倒壊等や、電線の切断による二次災害の発生を抑制するとともに、狭隘な道路を解消することで、災害時に緊急車両の進入が容易になり、市街地の防災性向上が図られました。



阿倍野地区(平成15年撮影)



阿倍野地区(平成18年撮影)

# 【整備事例②】良好な都市景観の形成と快適な歩行者空間の確保

## 整備事例(良好な都市景観の形成と快適な歩行者空間の確保)

【整備前】



阿倍野地区(平成15年撮影)

【整備後】



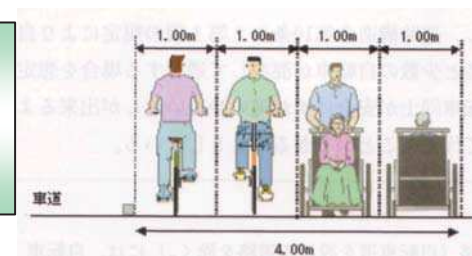
阿倍野地区(平成18年撮影)

### 電線類の地中化に対する市民の声

平成13年度に実施した市民に対するアンケート※)では、回答者の約6割以上の方が、無電柱化の推進を望んでおり、約9割の方が実施効果があるという回答をしています。

※平成13年度第3回市政モニターアンケート「電線類の地中化について」

歩道幅員が4mに広がり、自転車2台、車椅子2台の通行の支障とならない歩道が確保できました。



※道路の移動円滑化整備ガイドラインより

## 整備事例(歩行者空間の確保のみ)



長吉東部地区(平成18年撮影)

電柱は未撤去



三国駅周辺地区(平成18年撮影)

歩道の整備

■電柱は撤去されていないが、道路整備は行われており、快適な歩行者空間の確保が図られています。

■歩行者と車の分離が図られ、障害者や高齢者の方々も安全で快適に通行できるようになりました。